

**平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果**  
**国立大学法人大分大学**

**1 全体評価**

大分大学は、人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することを基本理念としている。第2期中期目標期間においては、基礎的な学力に裏打ちされた高い専門知識とともに、柔軟な思考力と創造性を身に付け、知識基盤社会で活躍できる自立した人材の育成等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学の特色や強みである「医療」「福祉」「心理」を融合させた新たな学部「福祉健康科学部」の設置を決定するとともに、イノベーション人材育成強化に向けた新規授業開発の一環として、「大分の未来を考えるアイデアソン～Hack for Oita～」を開催したほか、大学初となる海外事務所「OITA UNIVERSITY BANGKOK OFFICE」をタイに開設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

**大学の機能強化に向けた取組の状況について**

学内のリソースの弾力的・有効的活用を検討し、平成28年度に「医療」「福祉」「心理」を融合させた「福祉健康科学部」の新設や教職大学院の設置、教育福祉科学部の小学校教員養成に重点化した教育学部への改組を決定しており、設置・改組に向けては、学内の教員人材や既存の施設設備を効率的・効果的に活用するなど、教育研究組織の見直しに合わせた全学的な資源の再配分を実施している。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○		
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項中10事項が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ 大学の特色や強みである「医療」「福祉」「心理」を融合させた新たな学部の設置

大学の特色や強みである「医療」「福祉」「心理」を融合させた新たな学部「福祉健康科学部」を平成28年度に設置することを決定しており、既存の学部から教員定員22名を拠出するとともに、既存の施設設備を効率的・効果的に活用するなど、新学部の設置に向けて学内資源の再配分を実施している。

#### ○ 副学長の増員によるガバナンス体制の強化

理事の所掌事項及び副学長体制について見直しを行い、新たに機動的・戦略的な運営を図るための副学長（大学運営戦略担当）や広報の充実・強化のための副学長（広報・男女共同参画推進担当）を配置するなど、ガバナンス体制を強化している。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

## ○ 年度計画の未達成

「年俸制導入等に関する計画に基づき年俸制適用教員の導入を促進するとともに、構築した業績評価システムに基づき適切な評価を実施する。（実績報告書28頁・年度計画【63】）」については、平成27年度中に業績評価システムを完成させたものの、実施運用するまでには至っていないことから、年度計画を十分には実施していないものと認められる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

## ○ 研究開発から実用化まで一貫して支援する体制の整備

研究から産学官連携まで支援できる体制を構築するため、全学研究推進機構（研究戦略推進担当）と産学官連携推進機構（産学官連携推進担当）の両機構の連携を向上させるとともに、新たにURAチームを設置し、科研費獲得のための説明会や共同研究・受託研究の新規獲得方策の立案、医工連携の取組を実施している。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていることによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

---

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 民間シンクタンクとの共同プログラムの企画・実施によるイノベーション人材育成

経済学部では、イノベーション人材育成強化に向けた新規授業開発の一環として、「大分の未来を考えるアイデアソン～Hack for Oita～」等を開催している。経済学部と民間シンクタンクが共同でプログラムを企画・実施し、企業・団体と連携して地域の社会課題を解決するプロジェクト手法や、授業で生み出されたアイデアを社会実装する手法を学んでおり、学生や教員、社会人など約130名が参加している。

### ○ 社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験における傑出した成果

社会福祉士及び精神保健福祉士の両国家試験においては、全国平均合格率が社会福祉士26.2%、精神保健福祉士61.6%という状況の中、両試験における新卒者の合格率100%を達成するとともに、大分大学のみが、2年連続で社会福祉士と精神保健福祉士に100%合格を果たしている。

### ○ 子供から大人まで活用できる防災教材の製作

防災に関する取組として、子供から大人までの幅広い世代が、楽しみながら災害に関する知識や備えについて学ぶことができる防災教材「おおいた減災かるた」を教育福祉科学部の学生が中心となって制作している。大分県内の防災関係機関や学校等に配布しているほか、ウェブサイトからもダウンロード可能となっており、防災イベントや防災教育の授業等で活用されている。

### ○ 大学初の海外事務所を活用した取組の実施

タイとの医療技術の連携を更に深化させるとともに、東南アジア諸国連合（ASEAN）域内における人材交流拠点としての活用や大学の海外事業展開に寄与することを目的として、タイの国立マヒドン大学シリラート病院内に、大学初となる海外事務所「OITA UNIVERSITY BANGKOK OFFICE」を開設している。本拠点を活用し、タイ国内の高校訪問や留学フェアへの参加等、留学生獲得に向けた取組を実施するとともに、タイにおける医療人育成や、日本式医療の海外展開を推進していくこととしている。

## 附属病院関係

（教育・研究面）

### ○ 薬物療法認定薬剤師の養成

「専門・認定薬剤師」の取得希望者に対し、OJT（On-the-Job Training）により、薬剤管理指導方法及び薬学的管理を実施した症例報告書の作成方法を指導しており、日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師に1名が認定されている。また、日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業により他施設から2名の研修生を受け入れ、研修を行っている。

**(診療面)**

**○ がん診療・脳卒中診療における積極的な意見交換・情報共有**

大分県がん診療連携協議会情報提供・相談支援専門部会、部会の下部組織であるがん相談支援センター情報交換会、大分脳卒中クリニカルパス情報交換会を開催し、脳卒中の予防の推進や医療・介護施設間での情報連携の強化等に関する意見交換、情報共有を行っているほか、大分県脳卒中懇話会と共同開催により講演会を開催している。

**(運営面)**

**○ 安定した財政基盤の確立に向けた診療科ごとの目標等の策定及び実行**

病院経営企画・評価部門会議において、診療科ごとに収入等の目標額を設定し、その達成状況の管理及びフィードバックを行うとともに、各部署からの提案及びヒアリング等に基づき、同会議において機能強化策を検討し、安定した財政基盤の確立に向けた多様な取組を決定・実行している。これらの取組を通じ、集中治療部の上位施設基準取得により1床当たり405万円の増収、後発医薬品の採用促進により1,896万円の削減等の成果を上げている。